

「新し
く海外に子会社を設立したのでその場合の連結処理を
教えてほしい」、「海外の会社を買収して子会社にした
場合の連結時の留意点を教えてほしい」といった、いわ
ゆる在外子会社の連結時の論点について質問を受ける

ことが増えている。

本稿では、在外子会社が連結対象となった場合の連
結処理手続について、現場担当者がスムーズに連結作
業を行えるよう、簡単な数値例を交えながら解説する。

第1章 外貨の財務諸表を円換算して合算 在外子会社を連結する際の 基本論点

この章のエッセンス

- 在外子会社連結時にどのような論点があるのかを把握する。
- 会計処理や決算期が異なる在外子会社を連結する場合の論点を把握する。
- 連結精算表作成時の論点および連結キャッシュ・フロー計算書作成時の論点を把握する。

在外子会社を連結する場合の連結財務諸表作成の流れ

連結財務諸表は、親会社を頂点とした企業グループを1つの会社のよう
にみなして、企業グループの財政
状態、経営成績、キャッシュ・フロー
の状況を報告するために作成するも
のである。

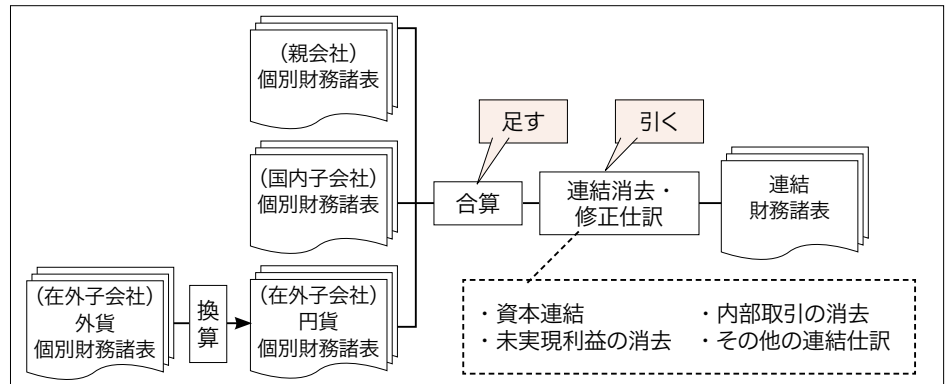
親会社とは他の会社の意思決定機
関を支配している会社、子会社とは
親会社に意思決定機関を支配され
ている会社である。親会社は原則とし
てすべての子会社を連結財務諸表に

含めなければならない。

連結財務諸表は、親会社と子会社
の個別財務諸表をまず合算し、その
後、連結消去・修正仕訳を行って作
成する。

在外子会社に関しては、当該子会
社の個別財務諸表は現地通貨で作成
されているため、そのままでは親会社
や他の国内子会社の個別財務諸表と
合算することができない。よって、在
外子会社を連結する場合には、在外
子会社の個別財務諸表を円に換算し
てから合算する必要がある(図表1)。

(図表1) 在外子会社がある場合の連結財務諸表作成の流れ



会計処理、決算期の 論点

(1) 在外子会社が採用している
会計処理

連結財務諸表を作成するにあたり、同一環境下で行われた同一の性